



日用心法鈔後篇

中

9
3456
4



門 口 9
 3456
 卷 4

工部

用心法鈔後編中 目錄

- 一 是世の長短いづれなる事 二丁
- 一 ありのまんまを造る事 七丁
- 一 今年より来年の楽に居る事 九丁
- 一 念佛の余善は勝る功德深しといふ事 十丁
- 一 何れの家にもいふ事 病人後死者ありといふ事 十二丁
- 一 一家親類の迷惑を申来る事 十八丁
- 一 子供の少く目鼻があくと直に放蕩を始る事 廿丁
- 一 妻子のいふかせ足かせのどろといふ事 廿五丁
- 一 大力曲持の松ゆいの事 廿六丁

藏島

用心法鈔後編中

目錄

ちく人^{じん}間^{かん}はく^くの^の付^つの^のる^るべき^{べき}らん^{らん}ぢう^{ぢう}なり。人^{じん}の^の業^{ごう}報^{ほう}でる^るべき^{べき}苦^く
 勞^{らう}まう^{まう}なり。是^{これ}の^{ぜん}前^{ぜん}世^せは。吾^{ぜん}根^{こん}の^の種^{うね}を^をまか^かる^るど^どから^らの^{のみ}や
 せ^せよ^よの^の種^{うね}を^をま^まけ^けば^ば天^{てん}上^{じやう}に^にも^も生^うれ^れく。ま^まん^んぎ^ぎ苦^く勞^{らう}の^のり
 ま^まど^ども。よ^よの^の種^{うね}を^をま^まか^かど^どよ。こ^この^の種^{うね}を^をま^まの^のり^りを^をま^まの^のり^りと^とあ^ある^る。難^{なん}波^は
 ま^まる^るり。は^は苦^く勞^{らう}の^の家^かを^をま^まの^のり^り作^{つく}り^り知^しら^らる^る。罪^{つみ}科^かま^まる^る。通^{つう}れ
 か^かう^うが^がる^るい。そ^そま^まつ^つよ^よま^まる^る五^ご濁^{だく}惡^{あく}時^じ惡^{あく}世^せ界^{かい}る^るれ^れば。よ^よの^の事^{こと}の^のり^り
 苦^くと^と知^しる^るべ^べ。是^{これ}の^の我^{わが}身^みより^{より}出^いく^くる^る業^{ごう}報^{ほう}の^のり^り。其^{その}上^{うへ}は^は又^{また}飢^き饉^{きん}
 杯^{はい}あ^あり^りく。ヤ^やレ^レ米^{まい}麥^{ばく}が^が高^{かう}直^ちの^の野^や米^{まい}物^{ぶつ}が^が少^{すく}る^るい。何^{なん}も^もか^かも^も高^{かう}直^ち
 ぐ。こ^この^の事^{こと}が^が出^いる^るあ^あぬ。ヤ^やレ^レ西^{さい}国^{こく}が^が二^に分^{ぶん}一^{いつ}奥^{おく}州^{しゅう}出^い羽^うが^が皆^{みな}無^む同^{どう}前^{ぜん}
 元^{げん}米^{まい}ま^まる^る外^{がい}が^が金^{きん}一^{いつ}朱^{しゆ}又^{また}の^の五^ご百^{ひやく}文^{ぶん}とい^いふ^ふか^かう^うる^る吐^そく^くぢ^ぢう^うり^りと^とう^うる^る

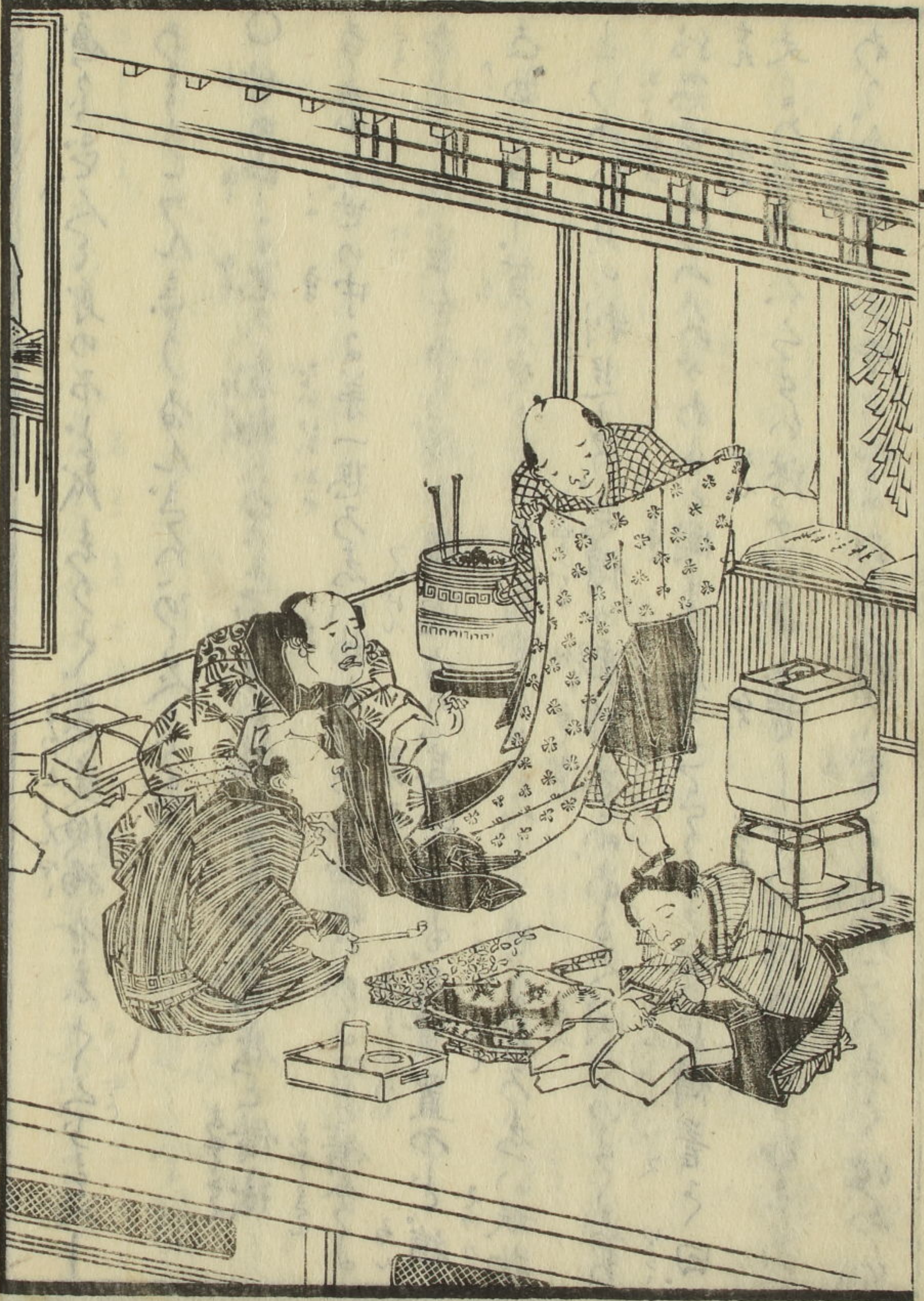
低^ひく^く忍^{しの}び^びた。あやむ世^よ界^{かい}なり。こまよふ川^{がは}く。法^{はふ}念^{ねん}佛^{ぶつ}を唱^{とな}
へく。まてん^{かみん}病^{びやう}のるた。極^{ごく}樂^{らく}く^く生^{せい}生^{せい}せんといふをり。人^{ひと}々^々法^{はふ}念^{ねん}
仏^{ぶつ}を唱^{とな}へく^くけ難^{がた}をのがれぬ
又^{また}人^{ひと}々^々があやむ^{あやむ}の^の由^{よし}年^{とし}の物^{もの}りも多^{おほ}く。又^{また}不^ふ時^じの出^で方^{かた}もわ
けく。まてん^{かみん}の^のび^びる^るた^たま^まに^に来^き年^{とし}の何^{なん}も物^{もの}入^いる^る今年^{ことし}
あそひから賤^{せん}布^ふを振^ふりく。金^{かね}を取^とる^る来^き年^{とし}の^のと^とる^る
戸^と塚^{づか}の大^{おほ}金^{かね}おむ^むた^ため^めんと樂^{らく}あ^あが^が居^ゐる^る。むる^{むる}急^{いそ}用^{よう}の^の
けま^{けま}く^く。サア^{さあ}来^き年^{とし}と^とる^る川^{がは}く^くと^とれ^れべ^べ。ま^まに^に不^ふ時^じの^の入^い
が^が来^きく^く。大^{おほ}と^とる^る。今^{こん}年^{とし}の^の去^き年^{とし}より^{より}。余^よ程^{ほど}の^のけ^けの^の大^{おほ}
物^{もの}入^いる^る今^{こん}年^{とし}の^のと^とる^る。押^{おし}さ^さう^うく^く。初^{はつ}に^に當^{たう}年^{とし}の^の二^{ふた}進^{しん}も

三^{さん}進^{しん}も雪^{ゆき}隠^{かく}へ^への^のゆ^ゆめ^めさ^さう^うの^の川^{がは}く^く。サア^{さあ}大^{おほ}迷^{めい}惑^{わく}去^き年^{とし}の^のよ^よかり
一^いが^が今^{こん}年^{とし}の^の大^{おほ}と^とる^る。と^とち^ちげ^げた^たか^かう^うあ^あん^んど^ど居^ゐる^るの^の毎^{まい}年^{ねん}毎^{まい}歳^{さい}
の^の事^{こと}なり。人^{ひと}間^{かん}の^の跡^{あと}が^が死^しん^んど^ど子^この^の年^{とし}なり^{なり}か^かぞ^ぞと^と居^ゐる^る
年^{とし}々^々の^の物^{もの}入^いる^る多^{おほ}く^くする^る。お^お違^{ちが}ひ^ひ。け^け段^{だん}も^も篤^{とく}と^と勤^{きん}め^めあり
て。あ^あく^くま^まと^とする^る。さ^さう^う。ユ^ユス^スと^とさ^さう^う。あ^ある^る人^{ひと}の^の望^{ぞう}白^{はく}は
。あ^ある^ると^とる^る。又^{また}く^く。年^{とし}も^もか^から^ら賤^{せん}布^ふ
毎^{まい}年^{ねん}毎^{まい}歳^{さい}か^か。賤^{せん}布^ふ也^や。金^{かね}銀^{ぎん}紙^し銭^{せん}ハ^ハ。毎^{まい}年^{ねん}々^々の^の法^{はふ}田^{でん}々^々や
終^{つひ}に^に法^{はふ}田^{でん}は^は法^{はふ}田^{でん}さ^さう^うの^の事^{こと}なり。た^たま^まに^にさ^さう^うく^く。宛^{えん}の^の法^{はふ}田^{でん}は^は
ま^まる^るの^のと^とる^る。あ^ある^る法^{はふ}田^{でん}さ^さう^うの^の事^{こと}なり。ま^まる^るは^は急^{いそ}用^{よう}が^があ^ある^る。何^{なん}
でも^{でも}あ^ある^る。と^とる^るとい^いふ^ふ。く^く。初^{はつ}に^に當^{たう}年^{とし}の^の二^{ふた}進^{しん}も

「いふ所は、あつたぬわを、つかうも、こゝろも、まゐく、下とまゐと、引に
お引くも、かゝ。一寸の隙も、あつたといふ。夫より、是は、他、初、也
終、は、内、へ、少、の、間、也。是、追、留、る、夫、は、是、は、宿、火、の
雨、降、く、後、へ、股、引、も、扱、も、質、多、へ、飛、ぶ。別、ま、こ、れ、ま、
い、り、と、あ、る。笑、止、子、万、る、事、多、り、け、笑、走、る、ん、ぎ、ん、何、の、り
あ、つ、る、ぞ、と、い、ふ。皆、身、を、不、お、應、の、お、び、り、を、ま、る、か、ら、乃
事、や、身、の、や、ど、を、和、里、下、を、ま、る、く、く、く、く、何、ぞ、其、母、う、
貪、多、る、事、の、あ、る、か、ら、ど、何、年、身、の、や、ど、を、知、り、く、夫
の、り、も、又、二、も、三、も、引、り、く、く、く、く、追、く、金、銀、の
追、留、も、あ、り、く。是、ま、ま、小、ま、の、責、苦、也。其、扱、よ、あ、る

「あ、い、む、ど、く、身、の、や、ど、が、あ、り、く。急、度、儉、約、を、ま、く、く、く、と、
あ、り、こ、ん、き、う、ん、ぎ、ん、何、の、り、と、
○世、の、中、は、思、ろ、お、物、の、る、ま、ど、も、か、ね、の、り、の、と、馬、鹿、と、借、銭
ある、本、と、世、の、中、は、第、一、思、ろ、あ、い、物、と、い、ふ、な、ね、の、り、の、と、借、金、
お、違、う、家、を、や、る、酒、を、根、源、る、其、中、の、も、又、質、置、や、ど、損
な、物、の、り、質、へ、変、え、く、置、ぬ、か、う、と、ま、ど、世、は、思、ろ、あ、い、妖、物
と、い、ふ、質、の、利、足、る、京、傳、が、戯、作、本、也。あ、る、人、同、く、い、う、と、あ
は、怨、雲、と、い、ふ、め、が、あ、る、と、聞、ま、う、た、が、こ、ろ、う、す、ま、ど、京、傳、言、く、曰
ま、い、思、ろ、い、ん、と、い、終、が、こ、ろ、昔、一、人、の、お、り、く、む、ま、い、
あ、り、金、銀、は、あ、り、ん、と、あ、た、め、と、常、金、銀、こ、ろ、あ、り、地、か、い、

「あ、い、む、ど、く、身、の、や、ど、が、あ、り、く。急、度、儉、約、を、ま、く、く、く、と、
あ、り、こ、ん、き、う、ん、ぎ、ん、何、の、り、と、
○世、の、中、は、思、ろ、お、物、の、る、ま、ど、も、か、ね、の、り、の、と、馬、鹿、と、借、銭
ある、本、と、世、の、中、は、第、一、思、ろ、あ、い、物、と、い、ふ、な、ね、の、り、の、と、借、金、
お、違、う、家、を、や、る、酒、を、根、源、る、其、中、の、も、又、質、置、や、ど、損
な、物、の、り、質、へ、変、え、く、置、ぬ、か、う、と、ま、ど、世、は、思、ろ、あ、い、妖、物
と、い、ふ、質、の、利、足、る、京、傳、が、戯、作、本、也。あ、る、人、同、く、い、う、と、あ
は、怨、雲、と、い、ふ、め、が、あ、る、と、聞、ま、う、た、が、こ、ろ、う、す、ま、ど、京、傳、言、く、曰
ま、い、思、ろ、い、ん、と、い、終、が、こ、ろ、昔、一、人、の、お、り、く、む、ま、い、
あ、り、金、銀、は、あ、り、ん、と、あ、た、め、と、常、金、銀、こ、ろ、あ、り、地、か、い、



世おとろへ
もの。おちの利
足あり。毎月
あふ。きぬ。百
は。四ツの柳を
まう。う。世
お。そ。う。た。ま
の。か。ん。ま。う。あ
か。う。づ。ち。う。よ
う。め。づ。



と樂よもういふとある。返く苦く多くる。来幸くと待
てもく。福德ハまこと。もくぬ唯来る者ハ幸のふくと死
か来るぞうりある。ばつ川の待どとも急度来る其外の
事ハ行どく。つ川も来る事なりとあるべし。

○初をををやせん角と思ふ。此の功なり。老の身とぞなり。
け歌の心をよくとらう。何の功もなく。年がまゝ。死
る事を覚悟あくる。後生を願ひ。念仏を申し。あべし。ば
念仏は大智大功德を得る。法るれば。かけく。急度唱
ふ。念仏。念仏中第一の功德なり。夫故。十方の諸仏皆
一同。勤め。念仏。彌陀の本願念仏を申す者ハ必定

必定極樂ニ往はせとある。家世。信合。まとい。念仏を勧め
ふ。誠あり。が念仏なり。法華經ハ多宝一佛の證明なり。
念仏ハ十方恒沙の諸仏の陀誠なり。是經の現文なり。法華經と
阿彌陀經とをよく。又十勝論五ハ云。恒沙乃如
来舌を三千刹。覆ひ。以て。釈迦の言説の真る。を。證明を
此等の奇特ハ一代は。絶。諸經は。於ても。明る。者な
り。とあり。是等の大德皆念仏を。念仏。法華經の題目
より。念仏の尊き事。百千万倍なり。念仏。題目が。あり。と
ある。念仏を。の。何や。なり。兩經の現文を。念
か。の。間。ある。念仏も。念仏を

誘ふハ愚鈍之智の悪人なり。正義正法の念佛を誘ふ僧俗とも
 無学文盲の火罪人なり。是等の入乃いふ事を変えて信ぜ
 ざる。大昔大功德はよハあづかる。念佛を信ぜし人ハ又
 念仏を勤めぬ事ハ諸仏方のさあざり。日本の神も亦皆念
 仏を勤めぬ事ハ天照大神の所哥也
 ○彌陀おむ人をむろく。るもたのふ。さるるの本乃神といはれど
 ○月も日も西つと入ぬのかぬくあふさる。極樂の道
 けり。弥陀を頼み念佛を申と者ハ皆極樂へ往生す。さる
 是ハいといふは信合の歌なり。念仏ハ無上大利万徳所帰

の寶号するまは。是をさるるへ。往生せしめと勤めぬ。是ハ歌也。日本
 にはさるる者ハ天照大神の所を勤めむろくも信トす
 る。念仏ハいふも死害の事なり。あつるもさるる人ハ大
 罪人なり。又天照大神の所本地は勢州津の國府の弥陀なり。念
 仏を勤めぬも道理あるなり
 又神道の大學者依田伊織の浅識法要といふ。天照大神乃所
 本地ハ觀音なり。是故に五十の宮東北に當り。明朗の峯に
 大堂あり。是ハ觀音の所也。是なりとあり
 日本。日本の總廟天照大神一神の所勤めよ。日本念仏
 け申べ死害の事也。況や八幡大菩薩の熊野大権現等の諸

初くも同ト事なり

詩經曰牆茨あゝ掃蕩もど中冓の言ハ道也もど道之
死野も道也醜一牆茨あゝ裏くもど中冓の言ハ詳
もどべりもど詳もどにまも。是をいへば長一牆茨あゝ
東也もど中冓之言ハ讀もどと讀もどにまも。これをいへば
辱一とありけ詩の起りハ衛の宣公死するされ。其子惠公
幼少なり。其妻腹の兄頑といへ者。惠公の母と不義あり。これ
もど内乱とる。此家ハ騷動なり。此也。け侍を作。けを
ハ。うねもどひこり。いへば掃蕩もどと。まどり。もとへハ
まきと。はれ。害あり。中冓の事ハ。いへば。まきと。いへば。まきと。

其上ハ國を。毒ハ。か。人の内家内。あ。裏と言
も。ち。捨。事。東。い。も。り。ま。り。事。言。債。言
も。ロ。い。ひ。あ。と。事。家。内。恥。を。あ。ま。く。事。是
も。の。家。内。の。事。外。へ。あ。い。つ。と。い。つ。也。人。む
く。の。恥。を。あ。ま。く。人。あ。ま。け。る。ま。り。の。り。随。分。と
か。も。く。穩。便。は。せ。と。い。つ。事。り。亦。い。ひ。事。小。言。の。あ
る。日本。も。り。あ。ら。ば。唐。も。天。竺。も。い。ひ。事。小。言。ハ。沢。山
は。あり。と。知。る。天。竺。の。三。界。と。安。唐。土。の。け。侍。ハ。死。あ。ら
る。り。天。竺。唐。土。日本。の。三。國。ハ。仁。義。禮。智。信。の。く。揃。ひ。た
る。大。上。吉。の。國。り。南。閩。浮。提。の。内。ハ。三。國。ハ。勝。る。國。り。其。天

よくあつて仕合のころいもき招くかきぬかうよな。これよく
のくふれあ一人のころ同うせねばなるぬと知る。
沙石集八といふく銭宝多き人。身を害し名をけき神のを
害とあり。是も又る遠のるひ事なれば。あまうりやうまを聖
む及む。あまうり福德を好む及む。唯是事を知りく
身のやどくよくとべ。福德をいふあまうりやうまを聖
○値とも家より下をえくく其身くのやどをえく
○草の葉も。聖人をえくく露のふ。あまうり重なるあまうり聖
文選十といふく。聖人の功名の己は返るを忌寵福の量と
を惡むとあり。聖人君子ハ己が分量は過る高位福德ハ災

あつて聖人君子ハ己が分量は過る高位福德ハ災
まうりやうま。然るも悪人ハ身のやどを知りく。無理な
高位福德を求む。何ぞ得べらんや。終る大あやまちをえく家
を失ひ身をあらばく。えくく事なひる。何かも。聖
人智者のるくを学ぶべ。何れの家も。いひ事小言
ありく。大ひく。事なり。あまうり。前の家なる。いひ
言小も。あり。悪人もあり。役成者もあり。邪魔物あり。く
大ひく。難儀苦勞なり。餘野外の家。く。世俗も苦勞なり。隙
く。安むとあり。大なる遠る。何れの家も。大難題あり
何れの家も。年中大いそがし。るをえく。余野。世俗も

世^せ俗^{じく}を^をく^くま^まさ^さと^とべ^べー是^{こゝ}は^はど^ども^も仕^し方^はな^なく^く世^せ間^{かん}を^をく^く勤^{きん}合^{ごう}と^とべ^べー

又^{また}後^ご天^{てん}者^{しや}ハ何^どの^の家^けに^にも^もく^くあ^ある^る者^{もの}と^とあ^あら^らず^ずあ^あま^まり^り苦^く勞^{らう}と^とあ^あら^らず^ず十^{じゅう}分^{ぶん}の^の世^せ俗^{じく}ハ出^で来^きま^まさ^さと^とも^も少^{せう}く^く免^{めん}の^の世^せ俗^{じく}ハ必^{かならず}ず^ず致^{いた}さ^さと^とべ^べーか^かや^やう^うな^な世^せ俗^{じく}ハい^いふ^ふ事^{こと}も^もな^なく^く是^{こゝ}れ^れも^も因^{いん}縁^{えん}も^もる^る人^{ひと}の^の世^せ俗^{じく}ハさ^さと^とべ^べー事^{こと}あり^りい^いふ^ふ事^{こと}あり^り人^{ひと}よ^よも^も難^{なん}儀^ぎを^をあ^あけ^けて^ても^も陰^{いん}德^{とく}を^を損^{そん}ぶ^ぶる^る事^{こと}あり^り必^{かならず}ず^ずあ^あら^らず^ず時^{とき}は^はい^いふ^ふと^と人^{ひと}の^の世^せ俗^{じく}ハい^いふ^ふ事^{こと}あり^り又^{また}大^{だい}切^{せつ}る^る兩^{りやう}現^{げん}の^の孝^{こう}行^{ぎやう}ハ損^{そん}ぶ^ぶる^るも^も苦^く勞^{らう}と^とあ^あら^らず^ず急^{きふ}度^ど致^{いた}さ^さと^とべ^べーた^た苦^くの^の事^{こと}あり^り

親^{おや}達^{たち}へ^へ不^ふ孝^{こう}ハ何^どの^のあ^あら^らず^ずと^とる^るれ^れバ^バ損^{そん}ぶ^ぶる^るあ^あら^らず^ずあ^あま^まり^りか^かし^しと^とい^いふ^ふあ^あら^らず^ず事^{こと}あり^り大^{だい}百^{ひゃく}遠^{えん}是^{こゝ}ハ^ハ尺^{しち}を^を知^しら^らぬ^ぬ損^{そん}ぶ^ぶと^とあ^あら^らず^ず理^りも^もる^るけ^けな^なく^く中^{ちゆう}く^くた^た誤^ごの^の義^ぎハ^ハあ^あら^らず^ず急^{きふ}度^ど孝^{こう}行^{ぎやう}を^を致^{いた}さ^さと^とべ^べー孝^{こう}行^{ぎやう}と^とあ^あら^らず^ず者^{もの}ハ^ハ天^{てん}よ^よも^も福^{ふく}德^{とく}の^の甘^{かん}露^ろを^をぬ^ぬく^くせ^せな^なく^くと^とい^いふ^ふあ^あら^らず^ず聖^{せい}孝^{こう}行^{ぎやう}と^とあ^あら^らず^ず福^{ふく}德^{とく}安^{あん}公^{こう}の^の道^{みち}あり^り聖^{せい}達^{たち}の^の長^{ちやう}命^{めい}を^をと^とる^るん^んど^ど何^どの^のあ^あら^らず^ず孝^{こう}行^{ぎやう}を^を致^{いた}さ^さと^とべ^べー然^{しか}ら^らバ^バ是^{こゝ}れ^れ迄^{いた}の^のち^ちや^や一^{いつ}紙^し因^{いん}置^ちと^とあ^あら^らず^ず若^し右^{みぎ}提^{だい}の^の事^{こと}あり^り非^ひなる^るた^たや^やう^うと^とい^いふ^ふ世^せ俗^{じく}損^{そん}ぶ^ぶと^とい^いふ^ふあ^あら^らず^ず隨^{ずい}分^{ぶん}と^と佛^{ぶつ}神^{しん}の^のあ^あら^らず^ずも^もあ^あら^らず^ず子^こ孫^{そん}ハ^ハ繁^{はん}昌^{ちやう}と^とい^いふ^ふ世^せ間^{かん}ハ^ハい^いふ^ふあ^あら^らず^ず事^{こと}あり^りれ^れバ^バい^いふ^ふ勤^{きん}と^と中^{ちゆう}道^{どう}の^のい^いふ^ふ所^{ところ}を^を通^{とほ}り^りあ^あら^らず^ず

けあやむん。換かへをさる。病やまなり。不仕合ふしあひが續つづひく。とあり人も。
らり人も。ゆたぐ。大慈だいじ愍みなり。出来できく。日ひく。泣なく。ら
を。今日こんにちハ大安たいあんを福徳ふくとくが来きく。うま。やく。と。悦よろこんで暮くを
日ひハ一日いちにちもる。常位じょうゐなげたる。む事ことなる。る。家来けらいけん
ぞ。一ひとつ。も。あ。さ。う。る。べ。一ひと家来けらいけん。う。ハ。迷めい惑わく子こ万まんを
事ことを申まをする。け。無盡むじん頼らい母子ぼしを一口ひとくちか。何なんく。ト。さ。ま。ふ。ま。人ひとが
か。何なんく。ト。さ。ま。ね。お。角かく出来できく。無盡むじん頼らい母子ぼしが。又またや。め。ま。り
ま。ま。ら。何なんく。も。一口ひとくちハ。是非ぜいひなり。か。何なんく。ト。さ。ま。と。否いな應おうる
し。押おし付ける。そ。ら。く。は。方かたる。一口ひとくちか。又またハ。何なんく。も。金きん子こは
か。あ。く。ト。さ。ま。け。金きん子こが。う。い。と。私わがハ。首くびを。何なんく。と。死しる。後あとは

あ。く。ぬ。川がはへ。ど。も。身みを。あ。げ。福ふくが。あ。く。ぬ。何なんく。も。わ。ど。も
無頼むらいの。み。と。延ひき引きあ。く。ぬ。あ。く。み。仕しう。け。見みよ。何なんく。と。是非ぜいひ
あ。く。か。あ。く。さ。る。モ。か。へ。さ。難なん儀ぎ千せん万まん此こ上うへハ。あ。く。べ。う。と。サ。ア
是これわ。く。ハ。い。と。つ。じ。と。は。ど。が。さ。ま。の。こ。と。一ひと休やすみの。哥うたみ
の。あ。く。お。う。さ。ぬ。せ。あ。く。ま。づ。い。と。つ。じ。と。用もちを。さ。ま。き。り
の。見みる。際さい。さ。や。い。あ。く。と。あ。く。う。の。か。ま。り。あ。く。さ。ま。き。り。人ひとが。あ。り
か。り。時ときハ。地蔵ぢざう顔がんと。あ。く。と。共ともし。か。へ。を。時ときハ。地蔵ぢざう顔がん
と。あ。り。笑わらを。ふ。く。と。か。へ。を。べ。一ひと是これハ。本意ほんいの。あ。く。べ。一
又また兄あに弟いもうと共ともハ。世話せわを。う。け。あ。く。あ。り。事ことを。持もつ。来きる。子こ供ども
ハ。世話せわを。う。け。目鼻めはなが。あ。く。と。ち。き。み。あ。く。い。事ことを。も。る。

ある處の女房が親類の公宴に入らば喘ををきけり。私等が
鬼も。どうらくを初め。こまりまもとといへむ。や。モウ
吉原へ移る。さう。子供おやくと思ふ。い。こと言が左様で
ござり。ま。少。も油断がある。ぬ。あ。げ。くのを。聞。居。
少。目鼻が。と直。親達。苦勞を。あ。ん。ぎ。子。万
の世の中。あり。孫。け。先生。の。狂。歌。ふ

○お。み。む。を。ぬ。び。し。と。ど。し。や。ど。も。あ。く。又。わ。む。の。尻。を。ぬ。ぎ。を
此。心。の。近。頃。ま。ぐ。あ。む。を。ぬ。び。し。と。ど。て。ま。さ。う。ま。し。中。思。ふ
る。も。あ。く。女。郎。買。を。始。め。と。又。借。金。の。尻。を。ぬ。ぎ。を。誠。ふ
世。話。を。わ。け。あ。ん。ぎ。を。わ。け。る。子。供。あ。り。と。い。ふ。を。あ。り。此

通り。お。遠。う。油。の。ま。ぐ。と。ど。又。知。音。近。付。の。皆。あ。ち。ふ
ま。ま。秘。儀。あ。く。居。る。と。の。車。東。を。見。る。も。西。を。見。る。も。ろく
な。ま。る。少。く。も。き。う。ぬ。ホ。ン。ニ。き。く。一。日。一。時。も。安。む。う。一。は。招
子。づ。一。生。苦。く。死。く。死。く。地。獄。へ。移。り。外。る。一。は。思。ふ
あ。死。世。の。あ。る。り。日。く。る。と。ど。の。な。も。う。い。ま。う。と。又。年。く
苦。く。ま。ぐ。く。る。う。け。招。子。づ。一。は。何。や。う。の。あ。ん。だ。あ。く
も。あ。ま。さ。く。一。毎。日。く。苦。事。と。い。ふ。少。く。も。せ。む。と。罪。な。り
作。り。く。居。る。地。獄。の。種。な。り。招。り。く。居。る。あ。ん。ぎ。子。万。の。世
の中。あり
ま。ま。又。一。家。親。類。充。る。飯。米。が。入。る。う。は。持。る。と。い。ふ。少。い

かる持せくかうぬかうよき。悲ろあひ世の中る。少い物を
を揃へ居ると。女をうけくたす。又かうい事む
らう。我の門くたす。中く油取も。またもるぬとえ
るべし。他人の馬ののらぶ。他人の弓矢振ふといふハ
裏の事なり。もうかやうなるもの。いふともさるぬ若
うと。先ん大方是式の事多し。人おるるぬ世
の中といふ。我あくまへ。けせん苦の土なり。みで
も。家来ぶも一家親類。智音近付ぶも頼り。者
者一人のり。一人らびの一人起と知るべし。始めお
るる。かうる。後へ。唯花のおひとる。夫

故は身餘虎經といふ。居家へ牢獄の如し。妻子ハ枷鎖
如し。賤賈ハ重擔の如し。親戚ハ冤家の如し。とあをいふハ
居家ハ牢獄の如し。妻子ハ枷鎖の如し。親戚ハ冤家の如し。とあをいふハ
ごとく。鎖ぶつる。また。ごとく。どくち人も。これ
も。牢獄の如し。牢獄へいふ。れたる。京人も
大坂へも。若光も。湯殿山へも。金毘羅へも。来る。も
来。若し。氣候。出。家。失。身。を。亡。所。詮
家。妻子。が。あり。牢。獄。へ。い。ふ。れた。る。が。ごとく。も。せ
足。せ。鎖。ぶ。は。る。が。た。る。が。如。し。難。儀。苦。勞。の。う。ら。ん。こ。る。
又。銭。宝。の。重。荷。の。ご。し。誠。は。か。ら。一。た。の。出。く。身。上。と。も

湯經いひ
 ろうぞのぞい
 さういひせ
 うせのぞい
 湯經いひ
 ろうぞのぞい
 さういひせ
 うせのぞい



せねが持けぬる。程賤宝持のへまで用を
 せねが失ふる。重荷の如くはおぼる。

かるめ草は大力曲持を。たうを二儀。其うは小
 樽を。又武儀。其うは又摺。又四儀置。

せく。様子。大か曲持。我け頃。大か曲持。色。物を。

せく。様子。大か曲持。我け頃。大か曲持。色。物を。

せく。様子。大か曲持。我け頃。大か曲持。色。物を。

廿四孝の淨瑠璃は竹は花と中へゆきと。甜指掉とま
 る時八島のあふれあがごとくあり。一家親類と中へよ
 けとどつしる。遠く時へ公事口論御番取沙汰とる。是
 も何う起るといふ。大方の身勝手の大欲と。起る事也
 ○兄弟の中も欲と。遠くごと親の世はあふ時よりそあふ
 伯父伯母や兄弟中も敵とる。欲の邪見のほたるけり
 ○親類の中もさきとて。貪欲。あふるつへ。いぬも同前
 ○くろくも。品々。かきと。色と欲。根本よりと
 法華經より諸苦所因貪欲為本とありけむ。諸くの苦
 の因といふ。貪欲をり。根本と為といふ事なり

一切の惡事。一切の苦。皆欲より起る。欲のつゆ
 一切災の根本とる。夫は十惡の中の大将なり。公万四
 子のやんのあけ中の随つる欲
 ○十惡を。さぐ。さぐ。さぐ。貪欲。般の。せいの。さき
 一切の惡。度の中。貪欲。せいの。さき。一切の災
 ひの。皆。欲。と。知。べ。何。年。け。を。と。知。り。く
 正。事。は。く。と。べ。邪。欲。邪。念。家。身。傍。を。か。め。く。親。子
 兄弟一切の人と中。く。く。く。親。子。兄。弟。知。音。近。分。と
 中。く。く。く。く。く。安。を。樂。へ。と。知。り。く。孟。子。四。い
 くと。父。母。俱。な。兄。弟。故。無。一。つ。の。樂。なり。と。あり。け

くもさ成るる一びと一あつべし是を才一の樂と云く
暮一ふべし是則ち君する人の大役なりけ大役を云く
勤めあふはるる樂も福德も壽命もありと云く
若万民の困窮を救ふを。かすいふるも年貢運上等を過る
は取事むるも勤へく居く萬民安全の政事なるは未
は災難病弱大苦勞の事むる。かすく福德安むる。其
は短壽と云りふべし。何れもいふやむる自由自在を被
し。樂もあつる成るる事なり。是を云くするなり。
若自由自在あり樂し。有と云ふ人け安樂の事成る
知る人の言するなり百姓町人といへども皆天民なるべ

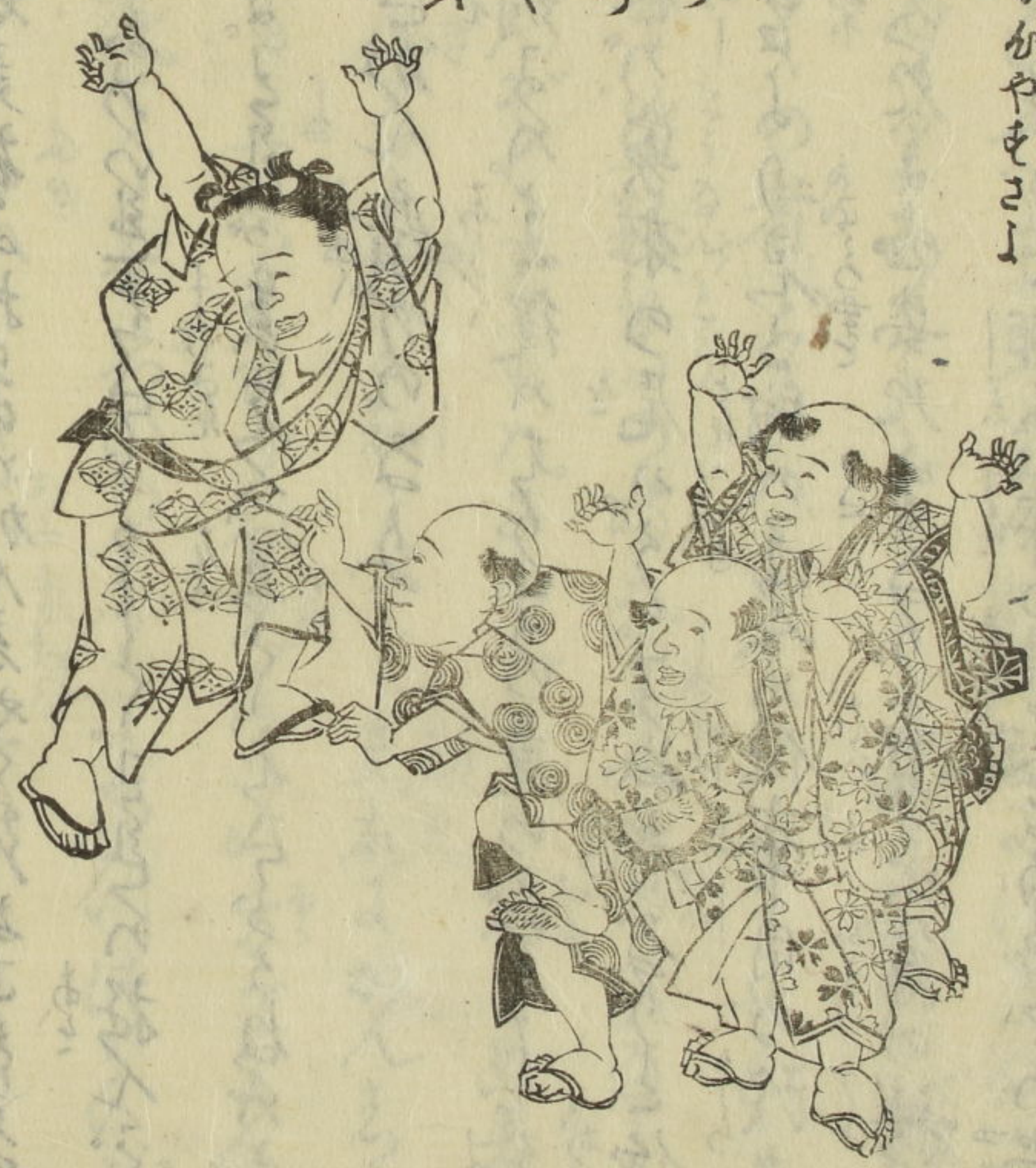
自由なるる苦なり。若自由自在を被る人民を苦しむ
まづ天の福德を落しあつる疑ひなり。天自ら民を治め
あつる能はる是よりく君長を多く民を治めあつた
すなり。一切の人の天の民なればを理非道歟云々天
罰の云くが。一。一。一。佛聖人の教へを以て
を理せむ。仁義の道を以て万民を安んず
みふひるべし。子孫繁昌壽命長久るべし。若を理非道
を被る者より長し。我身徳の樂をせば福德を失
ひ悪事災難多くありく。壽命短少るべし。一。一。一。
よめく家財を失く。候物を多く。万民をいさる万民

かゝるもの樂を仕授くことある。猶苦勞が増と知るべし。
此事能く得るは知あり。苦勞の本源は依のたおれ。
是をよく勤める人をもよひ人。
といふ人事をそとて天命を待の人なり。是を聖賢君子
のひとといふ。天より幸福を興へる人事疑ひる。人事を
そとて天の福樂を得る人なり。世より樂といふ
ものへけり。夫故は往古の聖人君子の身をよ
く治め家を齊へ万民を安む。是を徳の樂と
いふ。以外の樂は徳の樂よりあつて皆苦の種なり。
此事をそとて。知く聖人君子の真似は致さべし。

○世の中は苦なるもの。樂を求めば後苦となる。
和論語より。苦を以て樂とする。時樂しむるもの
なり。樂を以て。時苦く是は隨ふとあり。
けむをよくあつて。苦を樂とあふべし。是より
く苦らうの本源は依のたおれ。勤めるべし。樂
又其中にあり。あるは樂隱居とする。人事疑ひる。こと
職分をよくはとむるより外は樂の道なり。と知るべ
し。若し外は樂を求めば。一粒万倍の苦くあるとあふべ
し。けるをよくあつて。人事疑ひる。人なり。
○福徳は事業の内よりある。たまの生計の金銀の藏

○笛^{ふえ}を^{たの}鼓^こち^かり^がり^り獅子^{しし}舞^{まい}の
 踊^{おど}め^め——と^あめ^めか^かや^やも^もこ^こー

獅子^{しし}とい^いき^きこ^こや^やう^うふ
 え^えせ^せや^やう^うと^とあ^あん^んご^ごや^やう^う
 ふ^ふえ^えせ^せや^やう^うと^とか^かー^ら
 の^のつ^つう^うい^いて^てよ^よめ^めか^かー^ら
 と^とつ^つう^うあ^あい^いち^ちろ^ろそ
 大^{だい}事^じあり^りや^やち^ちろ^ろー^は
 大^{だい}ひ^ひふ^ふか^かや^やも^もー



子成。いれさかうよとせやうと死んどかうよとせやうと頭の
 はくかうよとせやうと。爾らふかひく大事の役なり。家来へ
 政見の役なり。大元よ公安き方なり。一切の主人たる者
 け道理をよく志す。其志はよく。真意はよく。働
 きあふべし。是主人の役なり。よいかをあるとめ
 聖神の古今。天下は御主人の所大徳なり。御幼年よ
 七拾五歳の御薨去迄。忍ろひを依る。役を御つとめ
 抱ぐとせらる。其餘の主人たる者の
 聖神の御幼少。違らぬかうよとせべし。是は付くも御一
 生涯は苦勞遊ばさる。たふ事を思ひあつと。及ぶとるべし

歩路を慕ひ奉る。何れも骨をあり。苦勞をく。所をあさめ
 家を齊へる。少くも御恩報ぐともお成べし。懐び
 いさん。職分を出精さる。初末の目出度人とするべし
 主人も主人とする。ぬき。あふ。若くも主人とする。け
 け。飯もく。めく。け。家来けんぞく。中る。これかう
 と。思ひ。家来けんぞく。を主人一人あつ。中る。さね
 る。ぬ。大旨。遠ひと。ある。来。そこ。ぐ。ん。あ。や。く。を。起
 きたる。万なり。然る。た。佛教を。よく。信。ぐ。道理を。よ
 く。ま。主人。上下。とも。大苦勞の。あ。や。を。世界。と。あ。つ。て
 ば。あ。う。う。ん。あ。や。と。い。ふ。あ。う。あ。う。と。う。と。ふ

釈尊の三畏の安きるる一猶火宅の如し。无苦无満を
 と怖畏べし。の。金言を知りてよくよく人となる。何れも
 安樂を仕指。大安樂を仕指とある。大間遠ひる。釈
 尊へ天子。大なる安樂を安んず。其外の者は大苦
 勞する。作せしむ。又一切の主人たる者へ安んず。我
 來たる者へ苦勞する。たのむ。又隱居たる者へ安んず。
 當職の苦勞する。仰せしむ。出家へ安んず。在家へ
 苦勞する。の。の。猫も子も皆引くる。三畏
 を安猶如火宅と即脱する。けむ。三畏の中へ安ん
 ず。なる。なる。火の付る。家の中は居る。ごと
 くなる。

是は家業をつつめ家を治むる樂もさうべし

○出世をせんと思ふべきをためくもたむるのむづかるせよ

○大切と思ふ家業は何れも。万のたふ。さてもうぞうむ

保しうづうへん苦も大ひる。又樂も大ひあり。

家来けんぞん苦勞も少し。さるば樂も又少う。何

とよよ立人ぞ大苦勞もあつ。何事よもむづかる重し大

身体極苦勞多し。ふふよ大身体の大苦勞をたふ人なりと

先大身体をせむむ。大苦勞ありと知るべし。いづれ大身

体を持大勢の人を使ひたがふ。大苦勞もむと願ふの

ぢや。家来一人使ふより二人三人はく大苦勞も多し。又

廿人三十人百人もつる大猶更苦勞多し。たふべし一人の

づうくころび。一人の怪我をさる。二人の煩ふ。一人の喧嘩をさる

一人の欠落をさる。いづれは色く招くの苦勞多し。又其のち

うへ。即暇をむさ色抱く。さる。いづれもあつ。中

混雜る。保し。ぢや。大勢とる。いづれ。一人の侍耳ふ

も入る。さる。又。家中の面々の。いづれ。是非

ふ。侍耳ふ。いづれ。いづれ。いづれ。後義等を申

付る事。又。役。家督隠居申付る等の。又。退教長

の。暇。料。いづれ。等の。事。あり。中。容易。ぬ。苦

勞。いづれ。重。け。さ。又。苦。勞。も。重。れ。事。なり。何。事。も

四十二

三用正法金像篇中

役有り 公儀ハ公儀の御役ありまうも

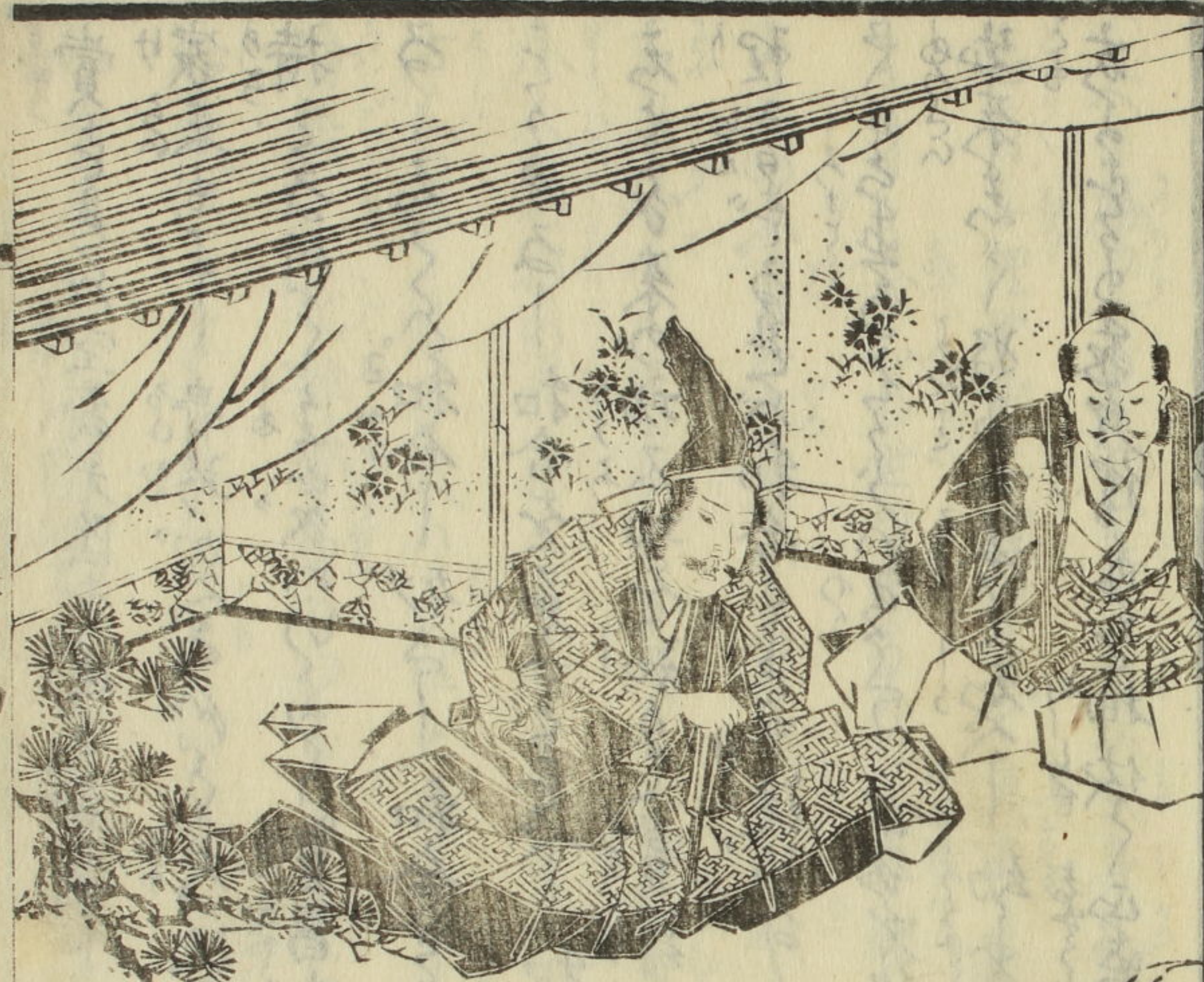
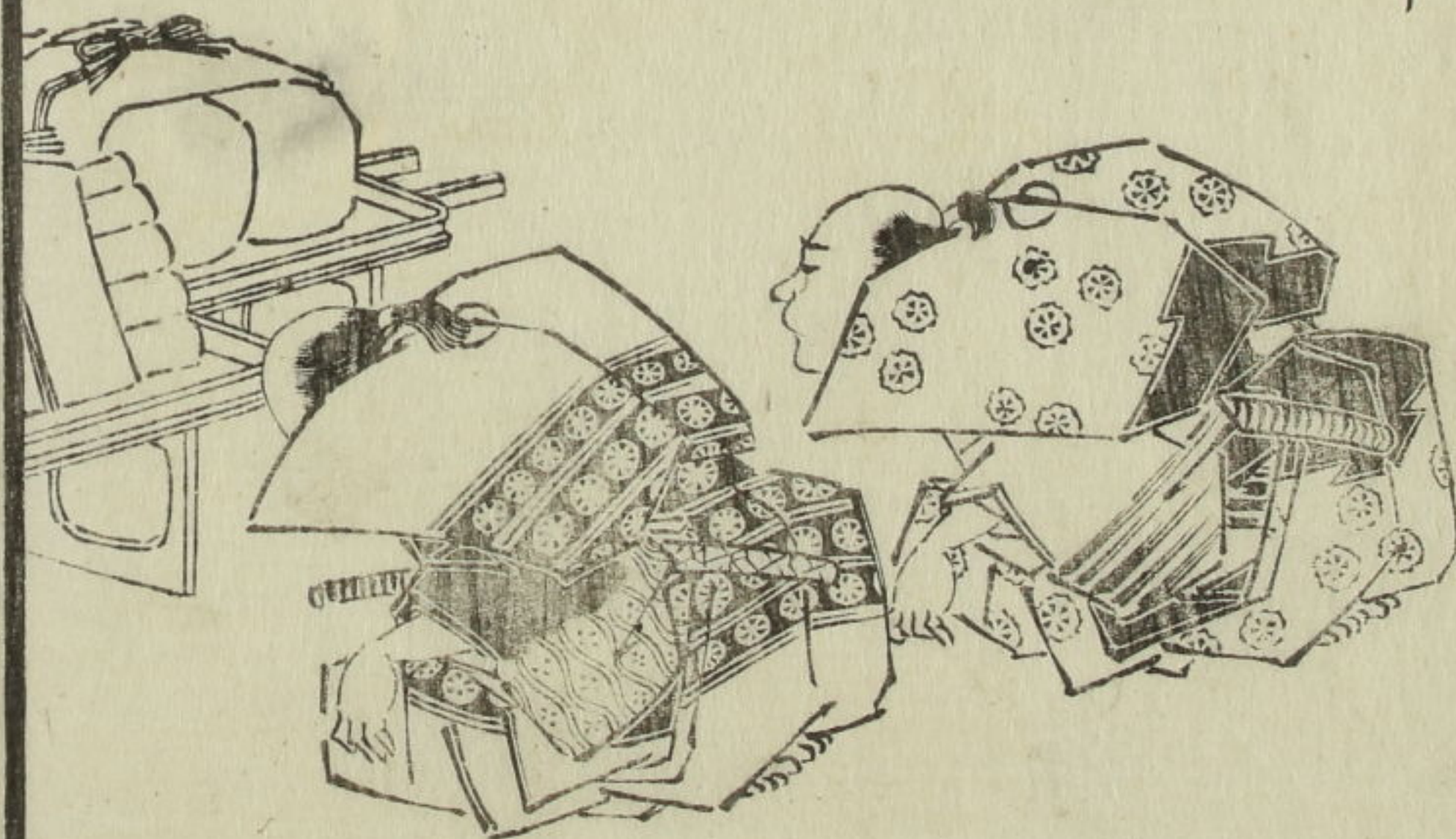
公儀の御役ハ誠ハ大役なり。日本國中の苦處を御耳
ふられあるは御用多うんとおふ。又日本中より目見
ふ来る人々も御用多うとせし色。又家督お預け給ひ
隠居給ひ色も御用多うとせし色。又家督お預け給ひ
申し来る人々も御用多うとせし色。又家督お預け給ひ
の御願ハ又ハ御用の役義作付し色。又ハ御役替等の御
沙汰其外公事御用進連追放御罪等の御種くさるるの
御政事あり。又御苦勞なり。又御中へ言ふ御
の御種くさるる。又御大名様方御種くさるる。

種くさるるの御役あり。大ひる御苦勞なり。いふや下りの
者どもハ家業を昼夜出精進もたれ苦勞なり。その中ハ
もろく勤むたれ役あり。いふ人々も御苦勞なり。又御
御苦勞なり。又御家来たる者ハ主人を大切とて。忠
義を盡し。家来の御役なり。親ハ子を愛し。教へてやる。
親の御役なり。また御身をかへり。また御親を敬ひ孝行する。
御役なり。また御義を盡し。また御妻をよく教へる。御役
なり。また御主人をよく随ひおる。御役なり。また御格を
偏執のゆるく。御身
を御役なり。また御兄弟を愛し。御兄弟と共ニ御苦勞の御役なり。また御
御敬ふ。御道之御友あり。また御信を以て交り。御悪あり。又

命をよめむ。むのまうくたきけ合道ありしひの
 道をもろく百姓へ農業とてけし職人商人はあはれ家奴とてく
 勤を大上り吉の人といふなり。武運長久家門繁栄はけ
 るくはあべ。又何れと苦勞ぐも出世せぬ人の役は立ぬ
 う。何れも出世さべ。唯正直は家業をほとめく。自然
 の福徳を求めあべ。是上りの君子なり何れと難儀
 苦勞さくも一軒の主人とるぬ人の役はたぬ人と知
 るべ。こまはあべ。何れと難儀さくも一軒の主人とる
 あべ。然れども金程を難儀さく人とさるぬ大ひはと
 事。何事も因縁運命は任さべ。出世さくふとさる

へ。若因縁運命さくさるぬ時天をも恨む人
 とも恨むと家身を恨む人さく引はんとさるぬの
 縁ふさくさべ。是を天命を知る大上りの君子といふべ。
 人とあはれ天命を知らむんハ君子といふぬさくさるぬ
 の末は人さく。人の天命を知。其止る所は止るさく
 人といふ君はた人の天命を知る第一のむねなり
 人事をさくさく仕合せ不仕合せ天命は任さべ。又主人は
 人のさくさく人のさくさく縁の無理非なるあり
 是をさくさく付く。さくさくさく。無理せむさく
 いさぬさくさく。無理をいひ無理をさくさく。家奴のさく

金銀屋公記は正成のいそ。常におごりせいにべし。國家てあふ根あり。あ
 けいふ貧乏なるもの。金銀米銭等てあらへ。さうんこと。病人等てふぢよ
 ありやど。人民共めがみのふきでん。て。却と。ふ赤子の母とあふがごとし。
 又いそ。おのれ一人とんで。万民あまよ
 かりき目とえをべう。ば。家来の主とたの
 み。主の家来とたえてこそ。天下の大
 事。よふべし。といへ。是は相違
 あり。さういふや相おし。すべし。何
 事。も。桶。西成。の。やう。を。べし。
 けい。いひ。かん。あ。上。と。さ。よ。く



賞と云ふは空を光陰を送る者なり。左様な様子をば多くも、
 家来もよく骨がくわぬと大ひはねば事あり。こゝにねが
 持とる川と。主家はいふ、繁昌とて、後はお持の
 る、とて人、和合が。和合せとて、何するやとて。成就
 とて、和合を第一とて。和合の根本は、人々の情を
 なく、家来の功不功を知りて、賞罰を心合せ。無理せとて、
 理をどうとて。和合とて、疑ひ。何卒、家来情を止
 る。とて、和合とて、いふ。家来情をなく、人々を
 出来、よくねがふとて。幼少より、学問も、好く、を
 あつても、家来情を、押付け、心合せ、情を、約せんが、為なり

○人は勝力へあはせど、老角、家来情、か、智恵、人、い
 とく、無理せとて、無理いふとて、真直、とて、人、上下、た、い、治
 まり、とて、安ん、世の中、若、無理、家来情、あ、家、の、
 る、といふ、事、人、あ、とて、知、とて、是、い、い、無理、非道
 家来情、の、あ、とて、若、無理、非道、家来情、の、あ、
 小人、愚邪、の大悪人、とて、人、
 古人、の、い、人、の、無理、とて、下、人、不足、とて、又、和
 倫、語、とて、民部、郷局、の、い、人、方、の、無理、の、た、者、と
 知、とて、ば、とて、下、い、人、あ、とて、者、とて、とて、
 い、とて、とて、あり、か、や、とて、得、とて、主、後、とて、い、い、人、

けむへ何ゆふふいふこと。已むとて物を取えん。他人ふふ
 るゆふふいふ者へ運をひらたせむ。事ふふ言事
 あり。は道理あるゆふをあらわす。功ある者へ急な恩恵
 を與ふべし。まへ一人の徳ある者へふふふふふふ
 功は随ふ配ふふふ。功ある者へ恩恵ある事ふふ
 又下ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 事ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 うふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 まふふふ其あふふふふ。智慧と覺のある人ふふふふ
 ぶふふふ。家ふふふ。着物ふふふ。食ふふふふふふふ
 是

前世は施しをせむるは依くる。又智慧ある。まふふふ
 々々々々。富貴ふふふふふふ。人あふふ。是を何れに
 致しむふふふふ。さふふふふふふ。智恵と覺ある人へ富
 貴ふふふふふふ。皆ふふふふふ。さふふふふふふ
 する。前世の施しふふふふ。おはる。経を讀む。書を讀
 だ者へ智者とふふ。慈悲施しをあらふ者へ福人とうふふ
 けふふふふふ。慈悲施しを致さふ。先餓鬼道へ落
 る氣きひる。又原の白隠和尚の施行の教は
 今世富貴する人へ
 今世施しせぬ人へ
 前世はさふふ。種ふふ
 後の世さふふ。是ぞ

利口ぐ富貴ぐるるゝをくべ。

純じゆんくもくも富ふ貴きなるなる紙し也や。

は世へ前世の種を次ぎ。

富貴は大小あるべし。

貧者ひんやは大小あるべし。

若惡せんあ二何なより多く種なま入。

たむと　むぎこあまつ
田畑より麦米はむぎこ入る。

ちがふとこ
変米よりまたも話あけべ。

あうまぶりの蛇まどこもわどこ

兄弟

輒^え有^る人^び皆^ひ矣^う。

利口ぐゑゑゑとるゐあづ。

未来の世の種人ぞ。

時猶小あるべし。

ひたう
非道ヒトウは大小あるゆへぞ。

盛衰二心はまた互ける。

穀物取ふためり

五升ごしょうや壹斗りくとへ実みるる

果は緩ゆる
へよ吾ごとく
くあわ
めち
ぞ

是書ハ
常
おも

此の如くある時ハ慈悲施をまゐる者ハ福德のあつるのみ

ちふ
すまひるゝ
あ
好んぐ
い
慈悲
やどこ
施ゝをまぐ
り
若
い
慈悲
やどこ
施ゝをまぐ

今世の人の用ひのうろー。又來世の貧窮孤獨の身と
えぜ ゆち うせ かんきうこどく

あつて、
 泣き
 せん
 うさ
 へる
 一。これ
 是より
 一。悲
 施
 一々

前サ
急来ハ
トハ
ズモ
えんぜ
畠
悪

前せ。慈悲の心。わが身を
えんやうに救ふ。えんは
えんをえんする。えんは
えんをえんする。

[illegible][illegible]

一人をぬき又神を
 獨徳を
 一人をぬき又神を
 獨徳を

よ新りたりとも叶ふ者よあふもと前世よ慈悲菩提の種
むさう めん ねが こと入 ちね

あるひのがき世に仏神へなりしかへりて禍を招く

徳も入用るも子位なるくするのくもく福徳も入用る
 し。アかるやうくば後のたふとふのやうなる事があること
 も。いのり祈禱するがやうくいふこととむ。たゞけ世乃
 るへ前世の因縁は但せ後生にまで。大幸なること。他力本
 願の歩念仏を申し。安んず世を送りしとるう其後へ
 戻り福徳も来りて増く歩念仏をのみし。終る目出
 度後生を送しとるう。ける。法の僧徒法といふ書は
 るく。さう。まをのりてくるとん。仏神へを授るがひを
 受く。教をくるとむ。かへりて罪を承るうありとむ。信
 むべし。け世の吉山綱縁へ前世の因縁は但せ唯正道の家

業を出精純し。衣を齊へ家来けんぞくを。よく養ひ其上は
 うけく。身にお願ふ。慈悲菩提根先祖の追菩提事等のい
 るを教をくべし。大福徳を得るの道なり。願ふこと。仏神
 守りある疑ひるし。

何れどなんぎくも主人とするう後バ後バ立ぬとあるべし
 主人とするう。苦勞のえんるんぎの大將をよく勤むべ
 し。仕事は付く大入用あること。長けむ三編へあがり

日用心法鈔後編中終

